

学校視察について

1. 目的

- 学校施設について、特別支援教育の在り方を踏まえた施設の現状の課題把握や好事例の収集等を行うことにより、特別支援教育の在り方を踏まえた学校施設の在り方の検討や、学校施設整備指針改訂における議論の充実を図る。

2. 視察先の選定方法

- 資料 5 「主な検討事項論点及び論点（案）」も踏まえつつ、特に以下の観点で選定する。
 - ・ 連続性のある多様な学びの場・普通学級における多様な児童生徒を想定した施設整備
 - ・ 福祉避難所としての役割
 - ・ 特別支援学校における ICT 活用等
 - ・ （既存の小中学校等施設を活用した特別支援学校の教室不足の解消及びそのバリアフリー化）
- に留意し、バランス良く視察先を選定。
- 6～7校弱程度を想定。

3. 実施方法

- 現地視察またはオンライン
 ※新型コロナウイルス感染症拡大の状況とともに、設置者及び学校の意向も十分踏まえつつ、実施方法を検討する。

4. 視察先事務局案

連続性のある多様な学びの場・普通学級における多様な児童生徒を想定した施設整備

- ◆ 灘さくら支援学校・灘の浜小学校（神戸市）【新築・同設置者】
 → 小学校・特支学校の児童生徒数の増加のため、一体的に整備し、R3.4に開校。両校の交流スペースを確保。敷地全体がBF・UDな部屋配置・動線・平面計画。新学習指導要領に合わせたICT環境整備。
- ◆ ふれあいの丘支援学校・十日町小学校（新潟県十日町市）【新築・同設置者】
 → 十日町小の老朽改築に伴い、支援学校を県から市に移管し、一体整備。H25.1に新校舎が供用開始。
 小・特・発達支援センター・学童保育の複合化事例。両校の交流スペース確保。
- ◆ 県立秦野養護学校・市立末広小学校（神奈川県・神奈川県秦野市）【改修・別設置者】
 → 養護学校の知的の小中学部を、H28.4に小学校の空き教室をバリアフリー改修して設置。
 市所有・県運営。
- ◆ 刈谷特別支援学校・小垣江東小学校（愛知県刈谷市）【改修・同設置者】
 → 小学校の校舎の一部を改修して併設。特支はH30.4開校。医ケアルームを設置し、病院と連携し決め細かな対応。バリアフリースイールの複数配置。両校の交流スペース確保、図書室や音楽室などは普段から共用。

福祉避難所としての役割

- ◆ 熊本かがやきの森支援学校（熊本県）
 → 多くの一般避難者と障害児童生徒を棟別にすみ分けて受け入れた事例。H26竣工。

特別支援学校におけるICT活用等

- ◆ 大阪南視覚支援学校（大阪府）
 → タブレット端末や黒板アプリとモニターを活用した授業の展開など、ICT活用を長年にわたり取り組んでいる。